

エビデンスとプラクティスの両立 3

現場との協働がサーベイランスを変える ～現場の気づき・やる気を刺激しよう～

サーベイランスは自施設の感染予防策を評価し、継続的な質改善を果たすために欠かすことのできない極めて重要な活動である。このことは、診療報酬制度や病院機能評価などを通して認知されてきており、その活動を担うICNに大きな期待が寄せられている。

その期待に応えるべく、ICNはデータ収集・分析・解釈・フィードバックに努力しているが、「うまく分析できない」「現場と問題意識が共有できない」「孤独を感じる」など、悩むことも多い。多くの時間と労力をかけたサーベイランスを感染減少や感染対策の向上に繋げるためにはどうすればよいか……。その鍵は、“ケアプロセスの質”そして“現場スタッフの気づきとやる気”にどう関わるかにあるのではないだろうか。

プロセスサーベイランスによる現場介入、感染発生時のタイムリーなリスク因子の検討など、現場との協働を大切にしながら成果をだしてきた取り組みは、これから始めるICNやサーベイランスに苦慮しているICNの今後の参考となり、それぞれの施設の実情に応じたサーベイランスのあるべき姿や方向性を見出す契機になると考える。